

笠が岳～烏帽子岳（裏銀座コース）

2日目 双六小屋～東沢乗越

 $\frac{3}{4}$

2926.6^m 藥師岳



小屋からは双六岳に
向つてハイマツ帯を切り
開いた急坂を登る。
20分も行くと赤米光。
空は雲も無い快晴
で嬉しい。樺沢岳の
上部には檜のホコ先
が見え美しい眺めだ。

このコースは花と鳥と氷場
のあるのんびりムードの山腹
トラバース道で、見晴しもよ
い。なだらかなしっとりした
快適な登山道には心地
よい北風が流れて全
然天地にいるようだ。

麓河岳の登りは急坂
の連続。かんびり歩いて
いったら何時になることやら？
ここは朝間の涼風に助
けられながら、休憩無し
で「張り上げ」1時間
で登頂する。

裏銀座コース第一の展望台。鷲羽岳
頂上は広く南北も長い。360°の大パノ
ラマは圧巻。槍のホコ先が朝から眼
を射る。そして多くの岳人が苦斗した
北鎌尾根の金さく巖、岩稜が
虫標まで続く。その手前には赤岳。
碓氷岳が気味悪く、赤い岩壁をささげている。

ワリモ乗越はな々とし、
静寂で美しいアン部。
お花畑と湿地が、
ちやんに広がるどか
な風景である。
サケ缶を開けて昼食。

水晶岳の肩に登り切ると
ここが赤岳か、すぐ下に水晶
小屋が見え雪渓があるの
が分る。
遠くには青い黒部湖が
輝き、立山がひととき高く
そびえ、白馬岳まで見える。
今回は水晶岳には立ち
寄りず雪渓で休憩。

三国の境(越中・飛騨・信州)
になっている有名な三俣蓮華
岳は、一國見たい忘れない山
である。

きれいな雪溪の冷たい水で顔を洗ひ、
一口飲みは「スツクリとする」。
雷鳥は朝早くから草花をつりばんで
は元気に歩き回っている。

鷺羽岳頂上より

直径約100mぐういかなあー。
ワシバ池が眼下200m下に透
明な水をたたえて美しく輝
いて見える。
遠くを見渡せば、白馬岳～五竜
～鹿島槍など後立山連峰。
その左には剣ヶ立山連峰と。
竜王山、その下は五色が原。
続いて越中沢岳。ぐんと大き
な山塊は薬師岳が雪田を
背負ってトカッと腰を据えて
いる。西方には黒部五郎岳
も裾を引いてなかなか悠大な
山で、近くは祖父岳、祖母岳
で、小さく雲ノ平山荘が静か
にたたずんでいる。

お、花畑の横を走ると、親雷鳥
が現われる。続にヒナ5匹が
あとから慕って行く。
親鳥は砂場に入つてカサカサ
と体を左右にゆさがっている。
ヒナ鳥たちも砂場に入つてマネ
をするしぐさが面白い。

赤岳から東沢乗越への
下りは悪路の急斜面と
岩稜のへつりで、ヤセ尾根
は風化しカリガてある。
少しの油断も出来な
急崖を眼下に、恐る
恐る下つて行く。足元は
赤くザレた凹凸激しい、
こゝでも裏銀座コース
とは、まったくどうなっている。
誠に悪路の連続で、
東沢乗越の地蔵さん
を見てようやくホッとする。

東沢乗越は広い。
正面には石地藏が
祀つてある。下れば
黒部川源流であ
らう。
この先野口五郎岳
へは約2時間の登
りである。白い峰が
延々と白く見えて、
まだまだ暑さとの
闘いでもある。

又六小屋の朝は早い。もう4時半には朝食が出る。テキパキ働かす人の姿は気持ちよい。永たちは鷺羽岳へ向うが殆んど登山者は槍ヶ岳へ向うのであろう。男も女も元々よく食事をとて出発準備に忙しい。

すべてに感じのよかった双六小屋に別れを告げて丁度5時に出発。急坂を登るほどに燕岳方面がぐんと明るくなってきた。今日は鳥巾帽子小屋までのロングコースだ。

